



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

美濃帯の失われた浅海成三畳系層序の復元 :
付加体中の深海 - 浅海成層のリンク

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小嶋, 智 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/656

研究成果の概要

本研究で得られた成果の一部は、すでに論文として公表した。論文となっていない成果も、国際シンポジウム、学会などの場で発表した。本報告書の末尾にそれらのコピーを掲載したので、ここでは本研究で得られた成果の概要を記すにとどめる。詳細についてはそちらを参照していただきたい。

美濃帯（ジュラ紀付加体）には付加した海洋性岩石として、遠洋深海成のペルム紀～前期ジュラ紀放散虫層状チャートと遠洋浅海成のペルム紀石灰岩の存在が知られている。浅海成の三畳紀～ジュラ紀石灰岩が存在しないのはペルム紀石灰岩を堆積させた海山・海台等の高まりが沈降し深海性堆積場となったためとも考えられるが、ペルム紀浅海成石灰岩を整合に覆う三畳紀深海成チャートの存在は知られていない。一方で、郡上八幡・赤坂金生山などのペルム紀石灰岩中には、三畳紀のコノドントの混在群集を含む洞窟・裂か充填石灰岩があり、また、三畳紀チャート中には浅海域からもたらされた碎屑岩が挟まれており、三畳紀に浅海成石灰岩が存在したことを示唆する。三畳紀チャート中に挟まれる碎屑性石灰岩は、三畳系浅海成石灰岩の存在を直接示すが、高山、郡上八幡、上麻生、美山、根尾、伊吹等に分布するチャート中の石灰岩を調査した結果、それらは、（１）ペルム紀のチャートに挟まれる碎屑性石灰岩、（２）年代決定に有効な化石を含まず時代未詳のチャート中に挟まれる碎屑性石灰岩、（３）後期三畳紀のチャート中に挟まれる遠洋深海成石灰岩のいずれかであることが判明した。また、中期～後期三畳紀の層状チャート中には白色チャートが挟まれる。これはもともと碎屑性石灰岩で、後の珪化作用のためにチャートになったのではないかと仮説のもとに解析を行った。しかし、顕微鏡観察・年代決定などからは結論は得られなかった。最終年度には、美濃帯の北方延長と考えられている極東ロシア、サマルカ帯についても同様な調査を予察的に行った。秩父帯の田穂、上村の三畳紀石灰岩中には、無堆積・化学溶解を示す層準がみつき、同様な現象が美濃帯の石灰岩体でも大規模に起こった可能性がある。

謝 辞

本研究を行う上で下記の方々には、本研究をすすめる上で大変お世話になった。記して感謝する。脇田浩二、斎藤 眞（以上産業技術総合研究所）、竹内 誠、東田和弘（以上名古屋大学）、井川敏恵（九州大学）、平井恵祐、伊藤健一、浅井孝佳（岐阜大学）。